

事業所における自己評価結果

公表 令和 4年3月31日

事業所名 児童発達支援はばたき

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		基準より広いスペースを確保している。	体を動かすダイナミックな遊びなどは、動線を工夫するようにする。
	②	職員の配置数は適切である	8		目が行き届くようお互いに声掛けしている。	屋外での活動の際は、人数確認を常に行っていく。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		刺激の少ない環境に設定し、集中できるようにしている。	段差など危険が予知できる場所はクッションテープを貼るなどするとともに、注意を促していく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		消毒など徹底し衛生的に過ごせるようにしている。	換気と室温のバランスを取りながら、感染症予防を徹底していきたい。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	8		業務の振り返りを行いながら、日誌に記入し、職員で共有できるようにしている。	コロナ禍が終われば、全職員での会議を増やしていき、より業務改善への意識を高めたい。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8		ホームページに公表している。また、保護者からの意向はその都度検討し伝えるようにしている。	日々、保護者からの小さな声も大切に聞き、業務改善につなげていくようにしたい。また、保護者の意見は全職員間で共有できるように書面で残し検討していく。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		ホームページに公表している。	保護者会などを利用して、事業所の評価を伝える機会も作っていった。

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8		療育センターさくら草の出張療育カンファレンスを利用して評価してもらっている。	出張療育カンファレンスを行い、第三者の目で評価してもらい機会を継続していく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		オンラインを活用し、随時研修の機会を作っている。	引き続き研修の機会をつくり、研修の成果も職員間で評価していくようにしたい。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8		療育カンファレンスや、保護者との発達の確認を通じてアセスメントを行っている。	アセスメントツールを新たに導入していく予定。アセスメントによる個別の課題を分析をより行っていくようにする。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8		参考になるものを利用している。	新しいアセスメントツールの導入を検討している。
適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8		保護者に分かりやすい目標を設定し、家庭と共有できるようにしている。	ガイドラインに沿った計画になっている。具体的でわかりやすい目標を設定し、家庭と一緒に課題に取り組めるようにしたい。

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8		個別の支援目標に沿った療育が行われるように、振り返りの時間を持つようにしている。	3か月に一度は支援計画の進み具合を検討していくようにする。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	8		月案、週案の立案を行っている。	季節の行事などを用いたプログラムを増やしていくようにしたい。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		同じプログラムでも、遊び方を変えるなど工夫している。	曜日によりプログラムの偏りがないか確認し、固定化しないように気を付けている。

	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8		一人ひとりの課題に沿った活動にしている。	支援計画を立てる際に、子どもの発達状況にあったものができるようにより意識していきたい。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		朝のミーティングで確認している。	打ち合わせに参加できない職員には、書面で確認してもらい、再度口頭でも伝えるようにしたい。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		療育日誌記入時に、日々の反省と共有すべき事項の確認をしている。	気づいた点などは職員間で共有し、疑問点は解消するように努めていきたい。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		その日のうちに記録をとり、疑問点などの解消に役立てている。	日々の記録を見れば、成長がわかるようにし、未達成なことも確認し改善につなげるようにしたい。
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8		日々の振り返りの中で行っている。	計画の見直しを行っていく意識を持つようにしていきたい。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8		コロナ禍で難しいが、電話で行っている。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	8		積極的に連携をとるようにしている。	必要があれば、その都度連絡を取るようし支援につながるようにしたい。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				対象児なし
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				対象児なし
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		保育所等訪問を利用するなどして連携している。	情報の共有を行い、移行支援をスムーズに行えるようにしていきたい。

との連携	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8		小学校へ保護者を通じて情報を共有できるようにしている。	情報を共有し、進学先で過ごしやすい環境が整うように協力できるようにしたい。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		療育センターさくら草の出張療育カンファレンスを定期的に受けている。	療育センターの出張療育カンファレンスを継続して行い、助言を受けられるようにする。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある			コロナのため難しい。	

保護者への説明責任等	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している			コロナのため難しい。	
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		連絡ノートやメールでのメッセージを通して行っている。	電話やメールでも気軽に話せる雰囲気を作るようにする。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	8		ペアレントトレーニングについて書面で伝えた。	ペアレントトレーニングのほかに、日々支援が必要な家庭には個別の配慮を行うようにする。
	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約時に行っている。	疑問が出れば、その都度丁寧に答えるようにする。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8		面談の時間を設け、説明し確認するようにしている。	疑問な点があれば、その都度質問を受け確認するようにする。
③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		日々の連絡ノートなどで悩みを共有し、疑問にも答えるようにしている。	土曜参加の時には直接話を聞くなどしている。電話でも気軽に相談できるように伝えている。	
③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8		コロナ禍で開催が少なくなったが、	土曜日にピアカウンセリングタイムを設け、保護者間の連携を持てるようにしている。コ	

				引き続き行ってきたい。	コロナ禍が落ち着いたら直接お会いする機会を増やしたい。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	その日のうちに相談できる体制を作っている。	電話やメールも活用し、気兼ねなく相談できるようになっている。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	月の便りと、毎週末にメールと写真での活動報告をしている。	コロナのため行事があまりできなかった。写真で活動報告は積極的に行っていききたい。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	8	十分に気を付けている。	職員間、保護者間でも、個人情報の取り扱いには気を付けるように折あるごとに確認するようにする。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	保護者には口頭だけではなく、書面でも伝えるなどしている。	分かりやすい言葉で伝えるなど、コミュニケーションの手段も個別に配慮できるようにする。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	コロナのため難しい。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	契約時に説明している。また、職員にも共有している。	月に一回は避難訓練を行っている。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	訓練内容も職員で確認している。	月に一回行っている。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	契約時に各自確認している。	新たな状況になった時にも、すぐに知らせてもらえるようにしている。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	契約時にかくにんしている。	現在対象児はなし。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	全員で共有している。	必ずサインをして共有し、確認をしている。

④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		オンライン研修を受けている。	研修を通じて、何が虐待に当たるのかを確認するようにする。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8			対象児なし。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。